

令和3年度の教育活動等に対する学校評価書

令和4年4月1日

学校法人沼津音羽学園沼津あすなろ幼稚園 園長 神宮寺 広美

同学校関係者評価委員会 委員長 内村 和美

- 沼津あすなろ幼稚園の教育目標 心の古里を作ろう
- 本年度の重点目標 ○自然に親しむ子 ○創造性豊かな子 ○思いやりのある子 ○たくましさのある子
「ていねいな生活を心がけ 気持ちよく過ごそう」
- 自己評価に対する学校関係者評価

※評価は、A（十分に成果が上がった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で表す

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
自然に親しむ子	園庭や園の自然環境に進んでふれさせる	B	○植木鉢の下のダンゴムシやミミズを探し、身近な生き物と触れ合った。 ○野菜や果物について話をする時間を作ったり、霜や雪に触れたりすることができた。 ○園で育てている花や野菜を朝の活動で定期的に観察し、子どもたち自身が大きくなっていることに気付けるよう声をかけた。 ○木の枝や葉っぱをままごとのご飯等に見立てて遊んだり、落ちて実を集めて遊んだりすることができた。自然に触れる環境が常にあることで、危険な虫等についても子どもたちがわかっていることに感心した。	B	園内の自然にはふれることができている。 園外の自然にふれることは、コロナ禍のため、むずかしい状況である。
	季節に応じた保育を通して自然の様子や変化に気付かせる	B	○夏は水遊び、雲の様子を見たり、冬はチューリップのお世話や霜に触れたりすることで、季節の変化を感じることができていた。 ○本年度は雪が少し降ったため、冬ならではの遊びや気付きができた。季節に応じた壁面製作や手遊びも取り入れ、気付けるようになった。 ○季節の変化を感じ共感したり、葉の色の変化や季節の自然現象と一緒に触れたりした。 ○栽培物やチューリップやヒヤシンスの生長などの変化に、興味をもてた。	B	
	子どもが見つけた自然の様子を保育に生かそうとする	C	○園庭で見つけた自然物をみんなで図鑑を用いて調べ、理解を深めた。 ○カリキュラムが決まっているから、全てを生かすのはむずかしいが、どんぐりを使って遊べた。 ▲園内の草、花、木を見て、子どもたちに「これは何か」と聞かれても、自分自身が勉強不足で、うまくできなかった。また、子どもたちが気付けるような言葉かけをもっとした方がよかった。 ▲氷や霜柱の観察はしたが、葉（落ち葉）でもっと遊んだり、土に触れたりできたらよかった。	C	
	自然を生かしたあそびを紹介する	C	○どんぐりを使った製作が盛り上がりよかったです。春の自然物等でも取り入れたらよかった。 ○秋はミニケーキ、冬はマラカスをどんぐりを使って作った。マラカス作りは楽器だったので、完成後メロディーに合わせて、楽しく奏することができた。 ▲珍しいものを見つけた際に、クラスで共有し調べたり、子どもたちが見つけた自然物を製作につなげたり、他にもできることがあったように思う。 ▲何か1つとってそこから展開していくことができなかった。例えば「氷=触れる」で終わってしまったことが残念であった。保育者の知識、また、そこから生まれようとしているものを見抜くことができるようにしていきたい。	B	
創造性豊かな子	運動会・発表会等の取り組みの中で個々の特性を見付け伸ばす	B	○発表会では、保育者が最終的な役決めをしたことで、無理せず取り組むことができた。 ○普段自ら前に出ない子が積極的に発言したり、運動に積極的でなかった子も前向きに取り組むことができるようになったりした。 ○ほめて伸ばすことに重きを置いたので、一人一人が自信をもって行っていた。普段消極的だった子も、大きな声を出せるようになり、引っ張ってくれていた。 ○きちっとした完成形を求めるのではなく、クラスの雰囲気や個々のよさを重視した。 ▲項目を進めなければ、と担任の思いが先行してしまった部分があったことを反省している。	A	子どもたちは、取り組んだ成果を持ち帰って、喜んでいました。ほめる声かけが多くてよい。
	子どもの発想を尊重したり引き出したりする保育を心がける	B	○今年度は、壁面等、子どもたちが好きな色、好きな形を自分で用意して、自由に表現できる機会を増やした。一人一人の個性がとてもよく出ていた。 ○発表会では、子どもたちから出た踊りのイメージを取り入れた。大道具も子どもの意見を大切にし、みんなで作り上げることができた。 ○製作活動を行っている時、特徴がある物を作っている子どもを見つけたら、すぐに他の子どもたちに紹介し、むずかしかったらまねしてもいいんだよ等、子どもたちが構えず安心して行えるようにした。 ▲カリキュラムに追われ、子どもの発想を生かす保育ができなかった。	A	

	言葉の発達や言葉への関心を高めるような保育や環境作りをする	B	<p>○月刊本の中での「ことばあそび」を日常の保育に取り入れた。(反対言葉、早口言葉)</p> <p>○しりとり、早口言葉、ダジャレ、逆さ言葉など、空いた時間を使い、遊びの中で学ぶことができていた。</p> <p>○手遊びや月刊絵本を通して、多くの言葉に触れられたと思う。また、覚えてほしい言葉等はクイズ形式にして、楽しく関心を高められるようにした。</p> <p>○絵本や紙芝居を通して、興味をもてるよう、リズムをつけてみたり、歌にしてみたりすることで、まねして口ずさむ姿が見られた。</p>	A	反対言葉を学んだり、興味をもつようなことをしたりして、よかった。
	五感を使って遊んだり、ものを作ったり描いたりする楽しさをたくさん味わわせる	B	<p>○壁面製作で様々な技法を紹介した。ストローで絵の具を吹きとばして模様をつける製作は、特に盛り上がった。</p> <p>○自由遊びでは自然に触れるようにし、空いた時間では粘土やお絵かきをした。また、何か珍しいものを扱う機会を大切にした。</p> <p>○いろいろな教材(絵の具・野菜・筆・粘土)に親しみを持ち、触れた時の触感を伝えることができた。また、いろいろな色があることを知り表現することができたが、まだ汚れることに抵抗感をもつ子どもの姿もあった。</p> <p>▲見て、触って、においをかいで、絵を描くことがあったが、機会は少なかった。園外に出ることが少ない分、園内のものを活用するべきだった。</p>	A	ボディーペインティングが本年度もなくて、残念だった。
	体の動きや音楽的な表現を楽しむ機会や遊びを大切にする	B	<p>○ちょっとした待ち時間等を使って、なるべくたくさん歌を歌うようにした。自由に体を動かして、音楽に合わせてリズムをとることができるようになった。</p> <p>○手遊びはもちろん、空いた時間に様々な曲を流し、思い思いに踊る機会を多めに作った。</p> <p>○クラスでも音楽に合わせて体操をしたり、様々な歌を歌ったり、聴く機会を設けた。</p> <p>○子どもたちが気に入った手遊び等を行い、その中で保育者自身も楽しみながら、子どもたちが開放感を感じられるように、言葉や動きを楽しんだ。</p> <p>▲運動会、発表会シーズンを終えると、音楽的表現の保育から遠のいてしまった。</p>	A	行事の前から、無理なく楽しく音楽を聴いたり、歌ったりしていた。
思いやりのある子	動物グループの活動を積極的に進める	B	<p>○コロナの問題もあり、積極的にはなれなかったが、子どもたちのふれ合いは例年通り見られた。</p> <p>○絵本の日やお弁当の日を通して、異年齢のかかわりを深めることができた。自然と上の子が下の子を守ってあげようとする気持ちが育ったように感じる。</p> <p>○1学期は十分な活動ができていないように思えたが、後半は集まれる回数も増え、慣れてくると年長・中児が年少児に積極的にかかわる姿が見られた。</p> <p>▲日常保育や朝の体操、集会は行うのに、動物グループの活動がなくなることが多く、こんなに制限する必要があるのかと思うことがあった。</p>	A	<p>コロナ禍の影響はあったが、その中でも有意義な活動ができていた。</p> <p>子どもたちは、他学年のこともよく知っていた。</p>
	自由遊びの時間を確保し、子ども同士がふれ合えるようにする	B	<p>○給食開始時間を見直すことで、終了時間も必然的に早くなり、昼休みが十分確保できた。</p> <p>○製作で余った時間や粘土・ピップ遊びの時間を通して、子どもたち同士で遊びを発展させたり、トラブルを解決しようとしたりする姿が見られた。</p> <p>○給食時間が間延びしないよう意識していたため、昨年度よりお昼に自由に遊べるようになったと思う。</p> <p>○1学期には担任が中心となって進めていた遊びを3学期には子どもたちで進められるようになり、成長を感じている。</p>	B	全員が自由時間を同じようにもてるとよい。
	学年の枠にとらわれない保育を意図的に取り入れる	B	<p>○コロナの問題で一緒に活動することはむずかしかったが、朝や昼休みにふれ合っていた。</p> <p>○行事や決まっている活動で、異年齢とかかわる機会は少なかったが、普段の日常生活で、助け合ったり応援し合ったりすることで、かかわることができた。</p> <p>○コロナ対策により、十分なかわりはできなかったが、踊りやリレーの見学をし合って、刺激を受けることができた。</p> <p>○動物グループや戸外遊びで、近くにいる子どもに声をかけて、リレーや砂場での山作りなど協力して遊ぶ姿が見られた。</p>	A	<p>子どもたち自ら、他学年の子にやさしくかかわっている姿が見られた。</p> <p>年長の子どもの自主性が育っている。</p>
	子どもが絵本好きになるように、時間を確保したり環境を整えたりする	B	<p>○絵本を積極的に取り入れ、その後、自由に読める環境を作った。</p> <p>○絵本を読み聞かせする時は、必ず子どもたち全員が保育者の方を見れる位置に座らせた。また、読み聞かせ中は子どもの様子を見て、言葉の繰り返し等楽しんだ。</p> <p>○戸外遊びや活動が主だったため、導入で読んだり、月刊絵本が中心であったりした。まだまだ何かの合間に読んであげることができたと思う。</p> <p>○担任の好きな絵本やおすすめの本をクラスの本棚に入れて、子どもたちが自由に読めるようにした。</p>	B	<p>時間確保がむずかしかったかもしれないが、子どもの話に、絵本の話が出てきている。</p> <p>読んでもらった本について、子どもはよく覚えている。</p>
	協力や助け合いを引き出すような学級運営を心がける	A	<p>○保育者からの声かけでなく、子どもたちからの声かけを促し、活動を進めるようにした。</p> <p>○困ったことがあったら、まずは友達に聞くように促した。友達を頼ったり、困っている友達をすぐに見つけたりすることができるようになった。</p> <p>○製作や準備等は、グループで助け合えるような声かけをし、お互いが進んで周りを見て教えてあげる姿が見られた。</p> <p>○人を思いやっていた行動を認めたり、クラスに共有する声かけを積極的に行ったりした。</p>	A	子ども同士が助け合っている声をよく聞く。
たくましさのある子	遊びの中でも体力や体の動かし方が身に付くように配慮する	B	<p>○朝や昼の時間を使って、ルールのある集団遊びや、鉄棒や雲梯など積極的に行った。特に2学期以降、コツをつかんで体を動かす子が増えた。</p> <p>○簡単なことから始め、ほめて自信をつけていく中で、少しずつ難易度を上げた</p>	A	運動は、たくさんやっているといると思う。

		<p>技ややり方を伝え、体を動かす楽しさを知れるようにした。</p> <p>○運動カード、なわとびカードを通して、コツを伝えられたと思う。</p> <p>○年少児なので、クラスで活動している時は、なるべく走ることを心がけてきた。</p> <p>入園した頃より体力も付き、子どもたち自身が体を動かすことが好きになった。</p>		
カードを利用するなどして、目標をもちやすくしたり、自ら運動しようとする意欲を高めたりする	B	<p>○カードの内容を見直し、年齢に合ったものにする事で、意欲的に取り組めるようにした。</p> <p>○音楽カード、給食カード、運動カード等、様々なカードを用意することで、どれか1つでも得意なことを見付けて、自信をもてるようになっていった。</p> <p>○できたことを紹介して、刺激し合えたと思う。なわとびカードの方が家庭でも取り組みやすく、レベルが簡単なので、先になわとびカードで運動への意欲を高めてから運動カードをした方が、取り組みやすいのではと思った。</p> <p>▲目標が目で見えてわかり達成感も味わえていたのでよかったが、最初は強制的になってしまいがちだったので、進んでできるように気持ちを高められるような声かけをしていくべきだった。</p>	A	<p>子どもたちの運動能力が高いと感じる。</p> <p>受け持ちクラスに関係なく、子どもたちを見てくれて、自主的に動けるように導いてくれていた。</p>
いろいろな運動遊びを紹介する	B	<p>○ドッジボールやリレー以外にも、クラスで花いちもんめなどの集団遊びも行って、意欲が高まった。</p> <p>○1つの遊びから少しずつルールを変えて、遊べるものを紹介できた。(鬼ごっこ→氷おに、色おに等) 子どもたちからも新たなルールの提案をしてくることもあり、楽しめた。</p> <p>○運動カードを通して紹介した。</p> <p>▲リレー・ドッジボールだけでなく、年齢に応じた運動遊びをもっと紹介するべきだった。</p>	A	<p>子どもたちは、十分にいろいろな遊びをしていると思う。</p>
食に関心をもたせ、マナーやバランスのよい食事にも配慮する	B	<p>○黙食に取り組み、小学校に向けての準備、また感染予防の対策を行った。</p> <p>○ひじをつかない、足は閉じる等日頃から伝えてきた。話題にしたい食材が出た時には紹介した。</p> <p>○今年は黙食ということで、定期的にマナーについて話し、食と向き合えることができるようにした。少しずつ箸の持ち方、姿勢などが改善されていった。</p> <p>▲赤、黄、緑の食べ物について月刊本を通して伝えたが、その後につなげられなかった。表を用意して給食と照らし合わせる等、工夫できることはもっとあったように思う。</p>	B	<p>園庭で育てている野菜のおかげで、関心をもっている。</p> <p>給食に関しては、家庭でほとんど話題に出ない。食べる量の調整ができるとうい。</p>
友達が少ない子や、孤立しがちな子の支援を心がける	B	<p>○おとなしい子や遠慮がちな子も、支援がなくてもクラスで楽しそうに活動してくれていた。</p> <p>○進級当初は遊びの輪に誘っていたが、だんだんと自分から声をかけられるようになった。気の合いそうな子と席を近くにすることで、交友関係が広がった。</p> <p>○その子の苦手な環境、人とのかかわりの中で困っていることを考え、フォローした。</p> <p>○まずは保育者が常に言葉をかけ、手をつなぐ等、また友達とつながりができるよう、友達、保育者と一緒に過ごすことを心がけた。</p>	A	<p>一人一人の子どもに合った支援ができています。</p>
継続して運動に取り組むような工夫をする	B	<p>○カードが終わっても、次は何を目標にするのか聞き、自ら課題に取り組めるよう何をすべきか明確にした。子どもたち同士で高め合った。</p> <p>○少しでもできるようになったら共に喜び、次の目標を設定し、常に励ますようにしてきた。</p> <p>○年長・中児がフラフープ、鉄棒、のぼり棒を行っている姿を見て、あこがれや個々にやってみたい気持ちが強くなり、行う子どもたちがいた。</p> <p>▲なかなか興味が続くことがむずかしく、1つの運動を継続することはできなかった。</p>	A	<p>カード等を活用して、次の目標につなげることができていた。無理なく楽しく継続できるようになっている。</p>
令和4年度に向けての改善策			上記以外の意見(抜粋)	
<p>☆日頃の保護者の様々な意見や、学校評価における意見を尊重し、園運営に随時役立てていく方針は、今後も継続していく。</p> <p>☆本年度もコロナ禍のため、活動が数量的にも内容的にも制限されたが、子どもたちの健康や安全を考えれば仕方がない。はたらきかけの工夫をし、柔軟に対応して、活動を充実させていきたい。</p> <p>☆本園の子どもたちのよい面、落ち着いた生活ができる子、やさしい心をもっている子が多いことがある。よい伝統としていきたいため、指導のレベルアップを図っていく。</p> <p>☆時間について意識を高めてきたのは、よい方向性であった。朝と昼の始まるの時刻、給食の時間等、職員も子どもたちも、意識して行動している。時間を大切にすることをさらに高めていきたい。</p> <p>☆昨年度と同じ重点目標「ていねいな生活を心がけ 気持ちよく過ごそう」に取り組んできた。コロナ禍であり、タイムリーな取り組みであった。この意識は、今後も継続できるようにしていく。</p> <p>☆本園のストロングポイントを継続・伸長させること、さらには課題的なことに取り組むことを加味した重点目標を来年度は設定したい。</p>			<p>・動物グループの活動は、本園の特長となっている。この活動によって、子どもたちのやさしい心が育っている。</p> <p>・暑さ指数計を有効に活用するなど、暑さ対策をしっかりと行っているのはわかる。ただ、保育室内の暑さは、かなり気になる。エアコンの設置を考えてほしい。</p> <p>・職員が親身に話をしてくれるのはありがたいが、個人情報に関する内容については、1対1であっても配慮してほしい。</p>	